

高専女子フォーラムにおける取り組み

峯脇 さやか*

An Approach to Kosen Joshi Forum

Sayaka Minewaki *

Abstract

Since 2011, National Institute of Technology has held Kosen Joshi Forum. In Kosen Joshi Forum, female students present educations, studies, and college life, in a poster form. Kosen Joshi Forum is coming many people: staffs of National Institute of Technology, female students of middle school, that guardians, and business people. In "Kosen Joshi Forum 2012" and "Kosen Joshi Forum in Shikoku 2013", the author recruited female students, and instructed poster presentation. In this paper, the author describes an Approach to Kosen Joshi Forum.

1. はじめに^{[1] [2]}

高専機構では、平成 23 年度から「全国の高専女子学生の連携による高専女子ブランド発信」事業を展開し、この事業の一環として、「高専女子フォーラム」を実施している。過去の開催実績、および、今後の開催予定を表 1 に示す。平成 23, 24 年度は、全国から公募した高専の女子学生たちが発表を行う「全国高専女子フォーラム」が開催された。平成 25 年度以降は、平成 23, 24 年度の取り組みを継承し、地区ごとに機構主催事業として全国的に順次開催している。

高専女子フォーラムは、学生支援活動のひとつとして、女子学生のキャリア教育の場とするとともに、高専女子学生による研究紹介、学生生活紹介、高専教育紹介を通じて、高専女子学生の実力を社会に向け発信し、科学技術分野における女性技術者の活躍促進について企業・高専関係者がともに考える場として位置づけられている。高専女子フォーラムでは、女子学生が、女子中学生・保護者、および、企業関係者、それぞれを対象として、高専の教育、研究、学生生活などについて、ポスタープレゼンテーションを行う。女子中学生・保護者に対しては、高専の理解を深めてもらい、企業関係者に対しては、高専女子のポテンシャルの高さを PR する。また、企業関係者からは、女性技術者の活躍についてのポスタープレゼンテーションを行ってもらい、企業関係者と女子学生・高専関係者が情報交換できる場が設けられている。どのフォーラムも多くの発表者、見学者が来場し、「高専の女子学生の能力の高さを知ることができた」「女子学生が高専で生き生

きと過ごしている姿を見て感動した」と、非常に好評である。

著者は、「2012 年度 全国高専女子フォーラム」「2013 年度 高専女子フォーラム in 四国」において、発表学生を募り、発表に向けての学生指導を行った。本稿では、学生指導の取り組み内容について報告する。

2. 2012 年度 全国高専女子フォーラム

2.1 フォーラムの概要

「2012 年度 全国高専女子フォーラム」は、平成 25 年 3 月 26 日 (火)、学術総合センター (東京) にて開催された。当日のプログラムを図 1 に示す。まず、開会式が実施され、「全国高専女子学生の連携による高専女子ブランドの発信事業」の活動報告、特別講演が行われた。午後は、21 高専 88 名の女子学生たちによる高専の教育・研究活動・学校生活などをテーマにした 56 件のポスタープレゼンテーションが行われた。そして、企業関係者から、企業内での男女共同参画の取組などについてポスタープレゼンテーションが行われた。

このフォーラムでは、学生スタッフ 89 名、教育関係者が 134 名、企業関係者が 76 名 (53 社)、合計 299 名の参加があった。

2.2 ポスター発表の概要

募集要項にあった内容について述べる。ポスタープレゼンテーションのカテゴリは、次の 3 つである。

A. 高専の教育 (授業などの内容)

表1 高専女子フォーラムの開催実績と今後の予定

イベント名	開催日	開催場所
2011年度 高専女子フォーラム	平成24年3月27日	東京(学術総合センター)
2012年度 高専女子フォーラム in 関西	平成24年12月9日	大阪市(新大阪丸ビル別館)
2012年度 全国高専女子フォーラム	平成25年3月26日	東京(学術総合センター)
2013年度 高専女子フォーラム in 関西 (代表幹事校: 奈良高専)	平成25年8月30日	大阪市(新大阪丸ビル別館)
2013年度 高専女子フォーラム in 関東信越 (代表幹事校: 東京高専)	平成25年12月23日	東京(学術総合センター)
2013年度 高専女子フォーラム in 四国 (代表幹事校: 香川高専)	平成26年3月21日	高松市(アルファあなぶきホール)
高専女子フォーラム in 東海北陸 (代表幹事校: 富山高専)	平成26年8月25日	富山市(富山国際会議場)
高専女子フォーラム in 北海道 (代表幹事校: 釧路高専)	平成26年9月26日	札幌市(北海道大学学術交流会館)
高専女子フォーラム in 中国 (代表幹事校: 呉高専)	平成26年12月20日	広島市(広島国際会議場)
高専女子フォーラム in 東北 (代表幹事校: 仙台高専)	※平成27年度予定	※未定
高専女子フォーラム in 九州 (代表幹事校: 北九州高専)	※平成27年度予定	※未定

2012年度 全国高専女子フォーラム プログラム

10:00	開会式
10:15	全国高専女子学生の連携による高専女子ブランドの発信事業活動報告
11:10	特別講演 日経BP社 ビズライフ局長(日経ウーマン発行人) 麓 幸子氏 「日本を元気にする女性の力を生かすには」
13:00	学生の発表「高専女子の教育, 研究, 学生生活」
15:15	企業の発表「男女共同参画の取り組み, 女性技術者の活躍」
16:45	パネルディスカッション 「女性技術者育成のために今, 何ができるか」
17:30	閉会式
17:45	名刺交換会

図1 2012年度 全国高専女子フォーラム プログラム

B. 高専の研究
C. 学生生活(課外活動, 海外インターンシップ)
発表者は1件につき2名までで, A0サイズのポスター1枚を持参するよう記載されていた。

さらに, 募集要項には, 募集件数, 申し込み方法, 開催当日までの簡単なスケジュール, 発表学生への旅

費(交通費, 宿泊費)の援助, 引率, 参加に当たって心得ておくべきことなどが記載されていた。

2.3 フォーラムに向けた学生指導内容

2.3.1 発表者の募集

「2012年度 全国高専女子フォーラム」の開催案内, および, 募集要項は, 平成25年1月30日付の文書にて通知された。このフォーラムに参加することは, 以下のようなメリットがあると考えた。

- 本校における女子学生の活動を発信できる。
- プレゼンテーションスキル, コミュニケーションスキルが向上する。
- 他高専の女子学生との交流ができる。
- 各企業における女性技術者の活躍を知ることにより, 学生自身のキャリアプランの参考になる
- 発表学生には, 旅費が援助される。

当時, 著者は情報工学科4年の担任をしており, 上述のメリットから, 担当クラス的女子学生に直接声をかけて発表者を募った。3件の応募をしたが, 申し込み多数による発表者の選考があり, 採用されたのは1件であった。なお, 採用された発表テーマは「国際インターンシップについて」(野間 千波 (I4), 東尾 里穂 (I4) / カテゴリ C) である。

2.3.2 発表に向けた学生指導

ポスタープレゼンテーションは、口頭発表と違い、聞き手との距離が近く、また、説明の途中でも活発な意見交換ができる発表形式である。ポスターセッションでは、聞き手は、聞き手自身が興味のあるポスターへ自由に向かうため、発表者は発表内容だけでなく、自身の発表を聞いてもらえる努力が必要である。

発表学生は、ポスタープレゼンテーションは、初めてであったため、著者がいつも作成しているポスターを例示しながらポスタープレゼンテーションがどのようなものか説明し、イメージさせた。

ポスタープレゼンテーションの準備は、大きく分けて、ポスター作成と発表練習の2つがあり、それぞれについて必要な作業がある。ポスタープレゼンテーションに向けた準備についての指導内容を以下に述べる。

(1) ポスターの作成

i) 発表内容の選定

指定されたポスターサイズで、発表者が伝えたいことを最大限に表現するため、発表内容を選定する。そして、聞き手がわかりやすい文章表現、および、図表を選定する。

ii) レイアウトのデザイン

聞き手が見やすいレイアウトを考える。見やすいフォントの種類、フォントサイズ、背景色などを精選する。

iii) Power Point による作成

i), ii) で作成した内容をもとに、Power Point でポスターを作成する。

(2) 発表練習

i) 台本作成

発表者の話す速さを考慮して、3~5分程度で説明できる大まかな台本を作成する。

ii) パフォーマンスの練習

説明する際の立ち振る舞い、視線、声の大きさ、身振り手振りについて練習する。また、自身の発表を聞いてもらえるよう、積極的に参加者に声をかけることを心掛ける。

2.3.3 発表の様子、学生の感想、反省

図2に発表の様子を示す。発表学生2名とも、活発に発表し、多くの方に興味を持って聞いていただいた。

このフォーラムに参加した学生の感想を以下に示す。

- 特別講演の内容は、とても勉強になった。
- 自分の話を自信を持って相手に伝えることができた。
- 企業の方とも接することができて就職について改めて考えることができた。
- 他の高専の学校生活などを知ることができてよ



図2 発表の様子 (野間 千波学生, 東尾 里穂学生)

かった。

発表に向けた指導が十分できたこと、また、発表学生が発表に向けた準備を積極的に行ったことにより、自信を持った発表ができたことにより、このフォーラムへの参加は非常に満足のいくものであり、価値のあるものであった。

3. 2013年度 高専女子フォーラム in 四国

3.1 フォーラムの概要

「2013年度 高専女子フォーラム in 四国」は、「全国の高専女子学生の連携による高専女子ブランド発信」事業の一環として実施してきた「全国高専女子フォーラム」を継承し、地区ごとに機構主催事業として開催することにより、さらなる高専女子ブランドの発信を目指すもので、四国地区5高専6キャンパスの女子学生が、高専の教育、研究、学生生活についてPRする場として、平成26年3月21日(金)、アルファあなぶきホール(高松市)にて開催された。代表幹事校は、香川高専詫間キャンパスで、著者は本校代表の実行委員として、このフォーラムに携わった。当日のプログラムを図3に示す。まず、開会式が実施され、女子中学生・保護者を対象とした高専女子学生によるポスタープレゼンテーションが行われた。そして、企業関係者から、企業内での男女共同参画の取組などについて21件のポスタープレゼンテーションが行われた。そして、企業関係者に向けた高専女子学生のポスタープレゼンテーションが実施された。なお、「女子中学生・保護者を対象とした発表」と「企業関係者に向けた発表」は、同じポスターであり、対象者に適した発表を心掛けるよう実行員会で指導している。5高専64名の女子学生たちによる高専の教育・研究活動・学校生活などをテーマにした34件ポスタープレゼンテーションが行われた。

2013 年度 高専女子フォーラム in 四国 プログラム	
12:20	開会式
12:30	女子中学生・保護者を対象とした高専女子学生によるポスター発表
13:30	休憩
13:45	高専女子学生・高専教員を対象とした企業の方によるポスター発表
15:15	企業関係者を対象とした高専女子学生によるポスター発表
16:30	名刺交換会
16:45	閉会

図 3 2013 年度 高専女子フォーラム in 四国 プログラム

このフォーラムでは、発表学生 64 名、見学学生 9 名、運営学生 17 名、教育関係者 116 名、中学生 94 名、保護者 89 名、企業関係者 70 名 (40 社)、合計 459 名の参加があった。

3.2 ポスター発表の概要

募集要項の内容について述べる。ポスタープレゼンテーションの部門は、次の 3 つである。

- A. 専門教育
- B. 研究
- C. 学生生活・課外活動

発表者は 1 件につき 3 名までで、A0 サイズのポスター 2 枚を準備するよう記載されている。なお、実行員会で各校 4~5 件の発表を行うこと、上記 3 部門から最低 1 件の発表を行うことが決定された。

3.3 フォーラムに向けた学生指導内容

3.3.1 発表者の募集

3.2 で述べた内容をもとに、著者が発表に興味のありそうな学生に目星をつけ、フォーラムでの発表を促した。表 2 に発表学生、および、発表内容の一覧を示す。どの学生も快く引き受けてくれ、フォーラムでは、7 件 9 名の発表が行われた。なお、発表者募集に向けて活動を開始したのは、平成 25 年 1 月からである。

3.3.2 発表に向けた学生指導

フォーラム開催日が春季休業中であり、帰省など学生それぞれに都合があること、発表のための準備を 2 月から開始しており、後期中間試験と重複することを考慮し、発表までの大まかなスケジュールを図 4 のように決定し、発表学生に配布した。

今回も、ポスタープレゼンテーションが初めてである学生が多かったため、2.3.2 で述べた内容と同様の指

導を行った。さらに、今回は Power Point でポスターを作成する前に、紹介したい内容、ポスターのデザインやレイアウトなどを手書きで書かせ、著者がその内容について適宜アドバイスした。プレゼンテーションが不慣れた学生は、自身のプレゼンテーションをイメージを固める前に、いきなり PC に向かって作業することが多い。その場合、準備が捗らず、よいプレゼンテーションができないので、準備不足が原因で、学生自身が満足いく成果が得られないことが多い。PC で作業する前に、手書きでポスターを書かせることによって、学生自身が紹介したいことをまとめ、自身のプレゼンテーションをイメージすることにより、本番で最高のパフォーマンスを引き出すことが可能である。

発表練習では、フォーラム本番を想定した模擬発表会を実施し、数名の教員に声をかけ各発表についてアドバイスをいただいた。

3.3.3 見学者の募集

このフォーラムでは、高専女子学生の見学者の募集も行った。著者は、見学者募集のポスターを作成し、各固有教室、学内数箇所に掲示し、さらに、全校集会で告知した。ただし、案内に十分な時間が得られなかったこと、開催日が春季休業中であったこと、開催地 (高松市) が遠方であったため、見学希望者は少なかった。

3.3.4 発表の様子、学生の感想、反省

図 5~図 12 に発表の様子を示す。どの発表学生も、活発に発表し、多くの方に興味を持って聞いていただけた。なお、政宗学生、横山学生の発表では、本人の提案により、ロープワークの実演を行った (図 11)。

このフォーラムに参加した学生の感想を以下に示す。

- 中学生が将来を考えて、学校生活の質問をされ、答えるのは大変だったが、興味がわいたと言ってもらえてうれしかった。
- 自分の将来について考える視野が広がった。
- いろいろな企業の方や他高専の女子学生とかわることができてよかった。
- 人前でプレゼンテーションするいい機会になった。

「2012 年度 全国高専女子フォーラム」と同様、発表に向けた指導が十分できたこと、また、発表学生が発表に向けた準備を積極的に行ったことにより、自信を持った発表ができたことにより、このフォーラムへの参加は非常に満足いくものであった。

4. まとめ

